

うずまさ
太秦遺跡現地公開資料

2004(平成16)年1月31日
財団法人 大阪府文化財センター

財団法人大阪府文化財センターは国土交通省・日本道路公団の委託を受けて、第二京阪道路・大阪北道路建設に伴う発掘調査を実施しています。

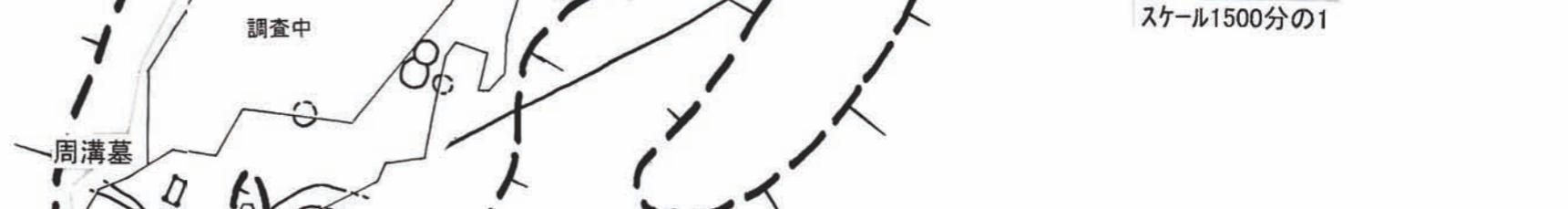
太秦遺跡は寝屋川市国守町と打上にあります。昨年10月には12基の古墳が見つかり、現地公開を行いました。今回、新たな調査区で『弥生時代の集落や墓地』と『古墳時代～古代の集落』が見つかりました。



調査位置および周辺遺跡分布図



大型の竪穴住居跡の他、多くの柱穴が見つかりました。



○弥生時代の集落・墓地については？

円形の竪穴住居跡が弥生時代のものです。直径約10mを測る大きな住居跡が11棟見つかりました。直径4～6mの大きさの住居跡も10棟あります。大型の住居跡は同じ場所で何度も建て替えを繰り返しています。住居跡からは磨製石剣が2点出土しました。また、調査地の西端からは周溝墓が1基見つかりました。方形に溝が巡り、その中央に人を葬った大きな長方形の穴があります。

○古墳時代～古代の集落は？

1辺4～6mを測る方形の竪穴住居跡が5棟、掘立柱建物が4棟見つかりました。

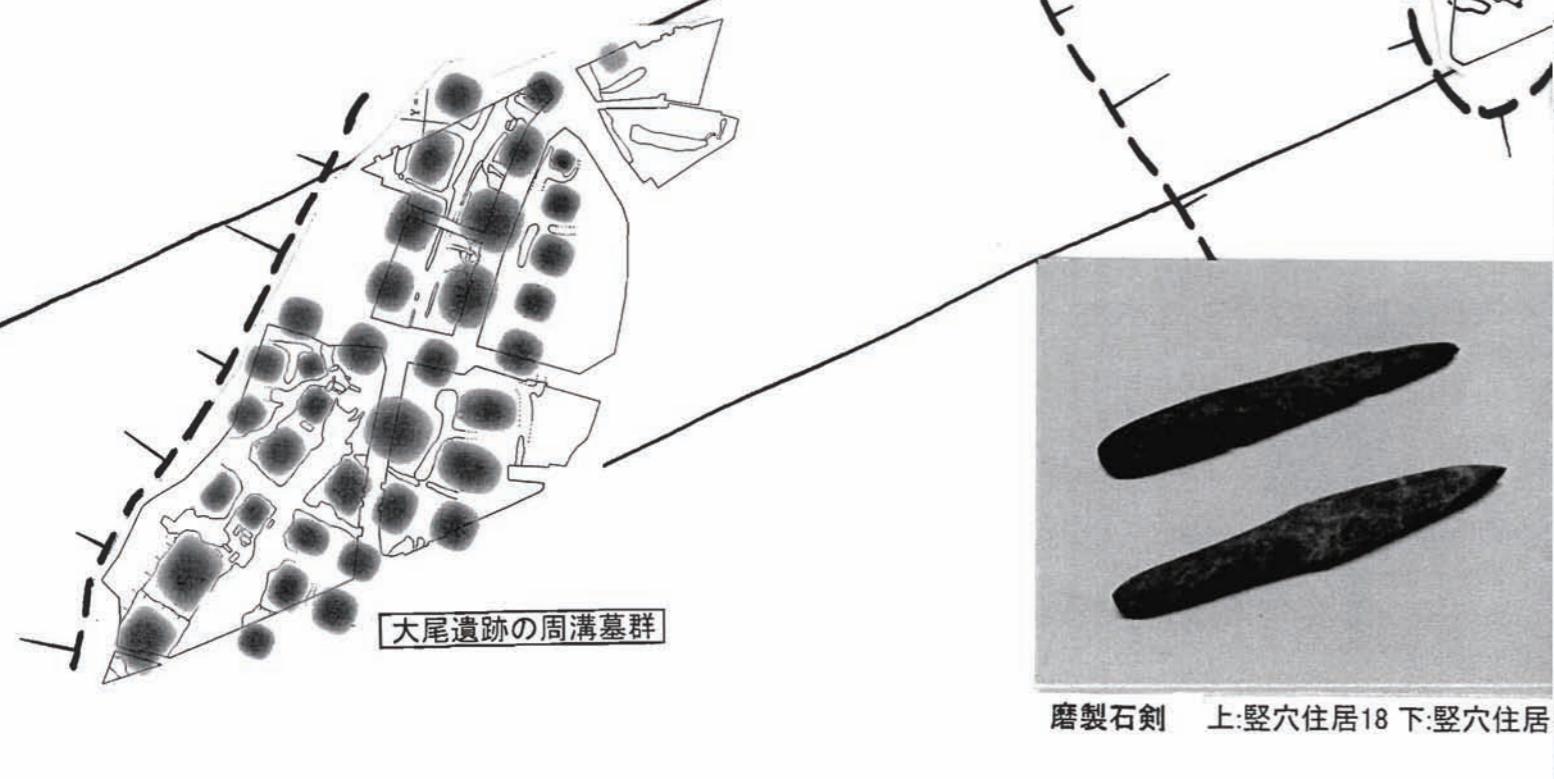
○いつごろの集落ですか？

出土した土器の観察から弥生時代の集落は約2,000年前（弥生時代中期）、古墳時代～古代の集落は約1,400年前のものであることがわかりました。

○弥生時代の集落はどんな場所につくられていますか？

丘陵の高台に大型の住居跡が集中しています。南側をみると大阪平野を望むことができる眺望のよい場所です。谷をはさんで西隣の大尾遺跡では、集落と同じ時期の墓地が見つかっています。墓地と集落の場所が決まっていたようです。

今回の調査で、太秦遺跡は弥生時代のこの地域における中心的な高地性集落であったことがわかりました。



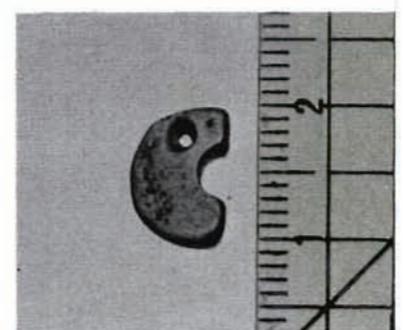
磨製石剣 上:竪穴住居18 下:竪穴住居2



何度も建て替えられています。



石庖丁を再加工した石斧



勾玉(ヒスイ)



打製石鎌



堅穴住居8: 直径約10mの大型のものです。



調査地の西端から見つかった周溝墓

